

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

B. 円滑な学位授与の促進

⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

取組を進めるに当たり困難であった事例について

B. 円滑な学位授与の促進

⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

《人社系》

●千葉大学人文社会科学研究科

「実践的公共学実質化のための教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本大学院 GP では「実践的公共学」という目標を掲げ、コースワークの充実による実質化を目指した。コースワークの質の向上に関しては、その大部分においてその目標を達成したものの、各科目ごとの到達度把握という点に関しては、十分な施策を施すことができなかった。

(苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本研究科が人文・社会科学の多領域にまたがる研究科であるために、各科目においては各教員の理想とするディシプリンとコースワーク上の位置づけが適合していないことや、指導教員、副指導教員間の連携不足が生じた。特に留学生および社会人大学院生に対する対応において、情報共有の不足がみられた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

このような反省をふまえ、平成 22 年度より指導実績の蓄積、情報の共有ならびに共同研究の基盤となる教育研究ポートフォリオシステムの開発に着手し、大学院改革の更なる実質化および可視化の促進を図っている。

《理工農系》

●京都大学工学研究科

「インテック・フュージョン型大学院工学教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

学修目的に応じたテイラーメイドカリキュラムの構成は、指導教員の指導・承認の下に、ほぼ定着している。学修の着実な実施・指導を担保するためにポートフォリオを活用した学修・研究指導の実施を目指した。ポートフォリオの標準様式を定め、本取組みの最終年度に、先ず融合工学コースにおいて導入することを提案したが、本取組みにおいては実施状況を確認する段階には至らなかった。

(苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

### B. 円滑な学位授与の促進

#### ⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

一部の学科、専攻では従来から独自の様式によるポートフォリオを用いた学修・研究指導が実施されている。ポートフォリオの導入により、とりわけ学科（学部レベル）では留年生の減少等の効果が認められている。しかし、大学院レベルでは全ての大学院生が研究室に配属され、指導教員による密接な指導が現に行われており、留年等の学修・研究指導上の問題が顕在化している訳ではない。事務作業量の増加等の負担を越えて、ポートフォリオを用いる学修・研究指導の必要性や効果についての認識を共有することができなかった。

**（どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか）**

先行して実施経験がある専攻で使われているポートフォリオ様式等を参照して、工学研究科共通の様式を作成し、同様式を活用した学修・研究指導の実施を、本取組みによって開始した新しい教育プログラムである融合工学コースに提案した。しかし、その実施状況は十分ではない。ただし、学修・研究指導に具体的な悪影響が表れている訳ではない。

先行した実績がある専攻の Good Practice を分析・紹介する等、より高度で綿密な学修・研究指導を実施し、記録に基づいた学修・研究指導の改善（FD 活動）を可能にするために有効な取組みであることの理解を共有する活動が必要であった。

## 《医療系》

### ●順天堂大学医学研究科医学専攻

#### 「研究能力と専門性を育む大学院教育の実践」の事例

**（具体的に何を実施し、何が困難であったのか）**

本学医学研究科では、大学院生の増加に伴い、学生管理、特に学修・研究成果の蓄積および履修登録情報管理の効率化が求められていたところ、WEB 上にて履修登録を行い、履修科目の管理、成績管理をする履修管理システムを本プログラムの支援にて導入した。平成 21 年度において運用を開始する予定であったものの、成績判定・評価方法の見直しおよび授業科目の見直し等を大幅に行った関係で、本研究科の授業科目に対応すべく、システム上、項目の大幅な見直しなどを行ったため、平成 21 年度はトライアル運用を行うに留まった。

**（苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか）**

大学院教育カリキュラムの内容やその成績判定・評価方法等については、平成 19 年度において一定の整備はできたものの、問 1 にて前述のとおり、継続的に改善・見直しを行ったため、それに応じて履修管理システムも見直しを行う必要が生じ、システムの完成に時間を要した。そのため、本来システムの本格導入を予定していた平成 21 年度において、シ

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

B. 円滑な学位授与の促進

⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

システムによる効率的な履修管理を満足に行うことができなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

平成 21 年度におけるトライアル運用を踏まえ、本プログラム補助期間中に改善された大学院教育カリキュラムの内容やその成績判定・評価方法等を反映した履修管理システムを整備し、平成 22 年度より、本格運用を行った。その結果、効率的な学修・研究成果の蓄積および履修登録情報管理を実施することが可能となった。